

ご提示いただいた録音データ「20251029_風の村理事長への提案」の内容に基づき、キックオフミーティングの議事録を作成しました。

この会議は、理事長からコンサルタント(上田氏)に対し、現状の経営課題とAI導入による改革のビジョンを共有し、今後の進め方(ヒアリング実施)を合意するための重要な場として機能しています。

議事録：業務改革およびAI導入に関する提案・キックオフ

日時：2025年10月29日 場所：風の村 本部(移転前) 出席者：

- 社会福祉法人 風の村：理事長、他 管理本部担当者
- 株式会社PreSoft：上田 雅夫(業務コンサルタント)、他 担当者

1. 会議の目的

- AI活用による業務改革、省力化、自動化の可能性についての検討。
- 現状の経営課題の共有と、コンサルタントによる現状分析(ヒアリング)の実施合意。

2. 決定事項・合意事項

- プロジェクトの進め方：いきなりシステム導入ではなく、上田氏による「業務課題ヒアリング」を先行して実施する。まずは管理本部(総務・経理・財務)で成果を出し、その後に全社展開を検討する 1。
- ヒアリング日程：11月の事務所移転(10/20以降引っ越し)が落ち着いた時期に実施する 2, 3。
- ヒアリング対象：財務部(経理課、請求課)、総務部(総務、人事、給与等)。管理職と現場担当者を分けて実施する 4。

3. 討議内容と主要課題

(1) 経営層(理事長)が認識している現状の課題

理事長より、以下の通り「アナログ・ボトルネック」と「多重入力」に関する深刻な懸念が共有された。

- 「三重入力」の非効率：
- 現場がExcelや手書きで作成したデータを、本部で紙に出力してチェックし、再度会計システムに入力している。
- 「現場入力 → 本部再入力 → 決算用加工」という3段階の入力が発生しており、非常に無駄が多い 5。
- 現金管理のリスクと負担：
- 小口現金の精算や立替払いが頻繁に発生している。
- 監査法人からも「数十の事業所で多額の現金を保有するのはリスク」と指摘されており、振込やカード払いへの移行(キャッシュレス化)が急務である 5。
- 月次決算の遅れ：
- 月次決算が翌月25～26日にならないと締まらない。経営判断のために、もっと早期に正確な数字(特に人件費の変動)を把握したい 6, 7。

(2) 現場の実態と構造的な問題点(ディスカッションより)

- アメーバ経営による安分計算の複雑化:
- 各事業所で採算を見る「アメーバ経営」を導入しているが、そのために「鉛筆1本」の費用まで細かく事業所ごとに安分(費用配賦)している 8。
- この安分計算と入力作業が経理の大きな負担となっているが、ルールが統一されておらず、現場(所長)の裁量や事業所の事情によって計算方法が異なる 9, 10。
- 請求業務のアナログ処理:
- 利用者への請求書(毎月約5,500通)の発行・封入・発送作業が手作業で行われており、4~5人が数日かけて対応している 11。
- Web請求への移行を模索しているが、高齢の利用者が多いことや、システム側の機能不足(複数事業所の一括請求機能がない等)が障壁となっている 11-13。
- マニュアルの形骸化と問い合わせ対応:
- 過去に作成したマニュアル(風グラム)が膨大かつ更新されていないため、現場職員は検索できず、本部に電話で問い合わせる状況が常態化している。
- 特に年末調整や採用シーズンには問い合わせが殺到し、本部業務を圧迫している 14, 15。

(3) 解決の方向性とAI活用の提案

コンサルタント(上田氏)より、以下の視点で改革を進める提案がなされた。

- 一気通貫(**One Fact, One Place**)の実現:
- 現場で一度入力したデータが、加工されることなく決算まで流れる仕組み(TEAモデル等)を構築し、多重入力を解消する 16。
- AIによる自動化の可能性:
- 問い合わせ対応: 散在するマニュアルや規定をAIに読み込ませ、チャットボットで自動回答することで、本部への電話を削減する 17, 18。
- 入力業務の削減: 請求書や伝票(紙・PDF)をAI-OCRで読み取り、自動でデータ化・仕訳を行うことで、手入力を削減する 19, 20。
- 業務設計の重視:
- 単にAIツールを入れるのではなく、業務の流れ(プロセス)自体を整えることが先決である 21。

4. 次回アクション

- ヒアリングの実施(11月中):
- 上田氏が来訪し、ホワイトボード等を用いて現場の業務フローを可視化・分析する 22。
- 対象:財務部(経理・請求)、総務部(庶務・給与・人事)。
- 所要時間:各部署1回あたり1.5~2時間程度 4。

以上